

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 23 年 6 月 30 日 (2011.6.30)

【公表番号】特表 2010-528151 (P2010-528151A)

【公表日】平成 22 年 8 月 19 日 (2010.8.19)

【年通号数】公開・登録公報 2010-033

【出願番号】特願 2010-509376 (P2010-509376)

【国際特許分類】

C 0 8 F 6/22 (2006.01)

C 0 8 F 214/18 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 F 6/22

C 0 8 F 214/18

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 5 月 12 日 (2011.5.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(A) 少なくとも 2 つの共重合性モノマーの共重合単位を含むフルオロエラストマーを含む水性分散物であって、第 1 モノマーが、前記フルオロエラストマーの総重量を基準として、25～70 重量パーセントの量で存在し、前記第 1 モノマーがフッ化ビニリデンおよびテトラフルオロエチレンからなる群から選択される分散物を提供する工程と、

(B) ポリエチレンイミンおよびポリエチレンイミンのコポリマーからなる群から選択される水溶性の凝固剤ポリマーの水溶液を前記水性分散物に加え、それによって前記フルオロエラストマーを凝固させる工程とを含む、少なくとも 53 重量パーセントのフッ素を有するフルオロエラストマーの製造のための凝固法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0064

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0064】

熱処理したフルオロエラストマーを含有する組成物の両方（サンプル 2 および 3）は、より短い t' 50 および t' 90 時間から明らかなように、未処理小片（サンプル 1）よりはるかに速く硬化した。加えて、260 のポリマー温度で押し出したフルオロエラストマーをベースとする、サンプル 3 は、150 で押し出したフルオロエラストマーを含有するサンプル 2 が硬化するよりもわずかに速く硬化した。

本出願は、特許請求の範囲に記載の発明を含め、以下の発明を包含する。

(1) (A) 少なくとも 2 つの共重合性モノマーの共重合単位を含むフルオロエラストマーを含む水性分散物であって、第 1 モノマーが、前記フルオロエラストマーの総重量を基準として、25～70 重量パーセントの量で存在し、前記第 1 モノマーがフッ化ビニリデンおよびテトラフルオロエチレンからなる群から選択される分散物を提供する工程と、

(B) ポリエチレンイミンおよびポリエチレンイミンのコポリマーからなる群から選択

される水溶性の凝固剤ポリマーの水溶液を前記水性分散物に加え、それによって前記フルオロエラストマーを凝固させる工程と

を含む、少なくとも 53 重量パーセントのフッ素を有するフルオロエラストマーの製造のための凝固法。

(2) 水溶性凝固剤ポリマーの前記水溶液が 2 以上の pH を有する (1) に記載の凝固法。

(3) 水溶性凝固剤ポリマーの前記水溶液が 3 ~ 9 の pH を有する (2) に記載の凝固法。

(4) 押出機中少なくとも 150 の温度で、硬化剤の不存在的下に、凝固されたフルオロエラストマーを熱処理する工程をさらに含む (1) に記載の凝固法。

(5) 硬化剤の不存在的下での、凝固されたフルオロエラストマーの前記熱処理工程が押出機中で少なくとも 250 の温度において行われる (4) に記載の凝固法。

(6) 剪断の不存在的下に少なくとも 1 時間少なくとも 200 の温度で、硬化剤の不存在的下に、凝固されたフルオロエラストマーを熱処理する工程をさらに含む (1) に記載の凝固法。